

令和7年1月1日発行
KENCHIKU SHIZUOKA

建築静岡

新年号

2025 Winter No.691

Kenchiku Shizuoka



KENCHIKU SHIZUOKA

Public relations magazine

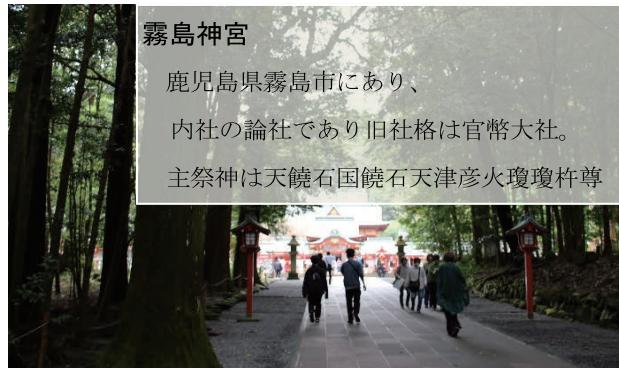


門司 北九州市旧大阪商船

特集 ■ 北九州建築紀行



公益社団法人静岡県建築士会
Shizuoka Association of Architects & building Engineers
<http://www.shizu-shikai.com>



建築静岡

Kenchiku Shizuoka

Contents

2025 Winter No.691

00 | 目次 霧島神宮 太宰府天満宮

広報情報委員会 塩見敏弘

01 | 第 66 回 建築士会全国大会 鹿児島大会 参加報告

広報情報委員会 塩見敏弘

02 | 新年の挨拶

公益社団法人静岡県建築士会 会長／松下好宏

静岡県くらし・環境部 建築住宅局長／鈴木義彦

03 | 景観整備機構【瓦版】 第 109 号

景観整備まちづくり委員長 倉田裕司

04 | 特集 北九州建築紀行

広報情報委員会 塩見敏弘

06 | 第 15 回高校生の「建築甲子園」 静岡県予選大会
本会青年企画委員長 小野田知矢

09 | コーヒーブレイク

“令和の米騒動と北海道米” “終わらない夢／中部ブロック”
“千尋の滝（センピロノタキ）” “君の名は／中部ブロック”

10 | ハイブリッド社会に生きる

住宅資産研究所 倉田剛

11 | しづおか木造塾 第 1 回・2 回講座

しづおか木造塾委員会 紙谷洋輔、鈴木浩一郎

12 | 編集後記・事務局からのお知らせ



第66回建築士会全国大会

鹿児島大会

参加報告

■もえよ！建築維新
たきる地で築くみらい

令和6年10月25日（金）、第66回建築士会全国大会鹿児島大会が開催され、前回大会を開催した静岡県建築士会の会員も多数参加しました。



○大会式典

式典に先立ち、奄美大島で発達した独自の民謡「奄美の島唄」を里アンナさん、前山慎吾さん2人の三味線と弾語りで披露されました。式典は公益社団法人鹿児島県建築士会米盛常務理事の開会宣言から始まり、西薗会長の開催地会長挨拶、国歌斉唱、物故者追悼、主催者である公益社団法人日本建築士会連合会古谷会長の挨拶とつづきました。来賓の祝辞の後、各表彰式が行われ、大会アピールの後に大会旗の引継ぎが行われました。次回開催地である大阪によるユーモアのある次回開催地アピールなど滞りなく式典は進み、公益社団法人鹿児島県建築士会杵井副会長の閉会挨拶で式典は終了しました。



見えない所へ
全てのちからを
All powers to the invisible place

SGM株式会社

～地業工事一式～

◆本社◆
〒431-1111 浜松市中央区伊左地町2293番地1
TEL 053-482-8255 FAX 053-482-8266

拠点 ■ 静岡支店 ■ 名古屋支店

<https://sgm-group.jp>





年頭のあいさつ／公益社団法人静岡県建築士会会長／松下好宏



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年同様本年も宜しくお願ひします。私ごと昨年の6月に会長職に就任して半年になりますが、各種の諸行事諸事業の執行に勤しみ時間の経過の速さを実感した次第です。

また昨年10月末には鹿児島で全国大会が開催され、静岡大会のお礼も兼ね80名弱の会員の参加を頂き、述べ3年にわたる大会関連の行事がすべて終了致しました。改めてご協力に感謝申し上げます。

さて皆様ご存じの事と思いますが、本年4月より建築基準法及び建築物省エネ法の大幅な改正が実施されます。この改正は近年にない重要な改正であり、建築士として業務に携わる会員には改正内容の周知の徹底をお願いしているところです。

本県に置きましては、昨年暮れ国土交通省より改正内容について実務講習会が開催されました。そのサポートセンターとして県より建築まちづくりセンターが指定され、建築士会としても協力して会員へのサポートを行う事としています。

本年3月までの年度内にまちづくりセンターと共にうえで、改めて改正についての講習会を県内数箇所で開催する予定ですので是非参加の程をお願いします。

今年は士会組織がブロック化以降後、4月で13年目を迎える事になります。

士会の重要な事業でありましたTOUKAI-0について、能登半島地震後の県内各市町における無料耐震診断の相談件数の増加により、次年度も引き続き事業の継続を行う事を前提に

現在静岡県等行政と協議を進めている状況です。

ただこの状況は令和7年度限りと受け止め、待ったなしでの事業収入の減少から今後の士会運営においては、今まで以上に踏み込んだ事業内容及び経費の見直しを進めて行く予定です。

令和6年度は組織検討見直し特別委員会にてまず各ブロックの組織運営の方法と活動状況の確認を重点に協議を進めてきましたが、組織のスリム化を進めて行くうえで様々な意見が寄せられています。現在は事務局の合理化に向けた対策案を検討していますが、会員相互の充分な理解が得られなければならないと考えています。

令和7年度には組織再編の合理化案を取りまとめ、会員の皆様にお示し出来るよう進めて行くつもりです。当然会員との意見交換等ご理解を得られるよう周知させて行きます。

また会員増強及び建築士育成事業の施策について、現在その準備資金の活用をもとに事業内容の検討を進めている所です。全国の各士会とも会員の減少が続き連合会を含め対策を模索中ですが、今後は法改正により益々専門職としてのスキルの向上と維持に努め、建築士会の会員になる事で社会に存在意義を示す事を前提に、対外的なPRに務めて行く所存です。

今後士会としては各地区からブロックにおいて会員相互の交流と活動をより推し進めるため、会員への事業の報告と情報提供を積極的に行っていくつもりです。

今は様々な諸問題が山積していますが、少しずつでも常に前向きに行動することを基本として事業運営にあたる所存ですので、今後とも会員の皆様のご協力とご理解をお願いして新年の挨拶とします。

新しい年を迎えて／静岡県くらし・環境部 建築住宅局長／鈴木義彦



謹んで新年のお祝いを申し上げます。

公益社団法人静岡県建築士会の皆様におかれましては、日頃から、本県の建築住宅行政の推進に御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、県では、昭和56年5月以前に建築された旧耐震基準の木造住宅の耐震化を図るために、全国に先駆けて、木造住宅耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」を立上げ、平成13年度から耐震診断助成を、平成14年度から耐震補強助成を開始し、貴会の御協力の下、耐震化の推進に向け先進的に取り組んできました。

令和5年度末までの助成実績は、耐震診断は93,388件、耐震補強は全国一位の26,516件となりましたが、住宅の耐震化率は令和7年度末の目標95%に対し、平成30年時点で89.3%に留まっており、さらに耐震化を推進する必要があります。

そのため、県では、「第3期耐震改修促進計画(R3~7)」の目標耐震化率95%の達成に向け、令和7年度末までのロードマップを作成し、TOUKAI-0の総仕上げに取り組んでいます。

こうした取組の効果に加え、令和6年能登半島地震による県民の防災意識の高まりにより、今年度の耐震診断助成や耐震補強助成への申込み件数は、昨年度を大幅に上回る実績で

推移しています。

県では、対象となる全ての世帯が対策を終えて頂くよう、引き続き、関係者の皆様と連携した様々な取組を進めてまいります。

また、今年は建築物省エネ法と建築基準法に大きな改正がございます。建築物省エネ法では、全ての新築で省エネ基準適合が義務化されます。建築基準法においては、木造戸建住宅の建築確認手続き等が見直され、審査省略範囲の変更、大規模なリフォームが建築確認手続きの対象になるなど設計者及び審査者の業務負担が増加する内容となっております。

平成19年6月に施行された改正建築基準法においては、建築確認申請手続きが滞る等現場が混乱することとなりました。今回の改正においても、建築確認手続きにおける負担増加により、工事着手までに多くの時間を要する事態となる可能性があります。

そのため、県では、改正法の円滑施行に向け、設計者・施工者に対しては、業界団体と連携し、木造戸建住宅の大規模なリフォームの際の建築確認手続き等について周知とともに、行政の審査者に対しては、研修をとおし改正法の知識を深め、また、行政庁間で審査事例等の情報を共有することで、建築確認審査・検査の円滑化を図ってまいります。

結びにあたり、貴会の御発展と会員の皆様の御繁栄、御健勝を祈念しまして、新年の挨拶とします。



■ 「ヘリテージマネージャー」

①文化財ドクター派遣事業

令和6年1月に発生した令和6年能登半島地震では多くの犠牲者が出ました。その後の豪雨災害もあり未だ復興の途中であります。改めて被害者にお悔やみを申し上げます。

この様な大規模災害が発生した時には、多数の建造物被害が発生します。住宅等においては応急危険度判定が速やかに実施されて危険な建物は使用の制限がかかります。その後、国指定等以外の文化財建造物を主な対象として、応急措置及び復旧に向けて専門家を派遣し、技術支援等を実施するために、被災建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）が、文化財防災センターを事務局として実施されます。災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定締結団体（日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、土木学会、国立文化財機構文化財防災センターの5団体）がその構成員となって、活動を行います。

この調査は3段階に分けて実施されます。

一次調査は、外観目視による被害状況の判定を行い、被害なし、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊に分けられます。

二次調査は、所有者・管理者の許可を得て敷地内・建物内に入りて調査を行い、応急処置の必要性や対処方針を含む所見、文化財的価値を判定します。二次調査は一次調査の結果から、被害状況などによって対象を選択して行われます。

三次調査は二次調査の対象建物に対し、具体的な修理方針と概算見積もり額を提示することで、所有者・管理者に建物を修理し、保存していただくことを後押しすることを目的として行います。国や県市町の助成がある指定文化財以外の地域の歴史的建造物はその修理方法や修理金額が分からず、公費解体により失われてしまうことが多いのです。

②ヘリテージマネージャー

前記の文化財ドクターにはヘリテージマネージャーが選任されます。ヘリテージマネージャーとは、60時間の講義と演習による講習会を修了し登録された人を呼びます。静岡県ではこの養成を建築士会が担っております。そして、このヘリテージマネージャーの活動を補佐し、情報交流を行うために静岡県ヘリテージセンター（SHEC）が景観整備機構まちづくり委員会の内部組織としてあります。

全国各県にもこのような、ヘリテージセンターがあり、その相互の情報交換のための組織として全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会が、建築士会連合会を事務局としてあり、その活動報告が建築士会

全国大会において行われています。

③ヘリテージマネージャーの課題

ヘリテージマネージャーは「地域に眠る歴史的文化遺産を見出し、保存し、活用し、まちづくりに活かす能力を持った人材」と定義されています。歴史的建造物的を発掘し、再評価する能力や保全・活用提案ができる能力などが必要とされます。

しかし、文化財ドクターの三次調査においては、文化財に関する知識だけでなく、修理の見積を行ったための積算に関する技術が必要となります。ごく一部の建築士を除いては積算が苦手な方が多いと思います。ヘリテージマネージャーもこの方面が苦手な方が多いようで、令和6年能登半島地震文化財ドクター派遣事業が三次調査を行う段階に入った今、石川県から東海北陸の6県に対して技術者の派遣要請が行われるようです。

④東北での活動

東北大震災の際に文化財ドクターとして宮城県で実際に活動しました。2月の派遣で氷点下10℃の中、建物の実測調査を行いました。



地元の方々に大変感謝されたことを記憶しています。2回目の調査に伺った建物が技術的助言に従い後に修理が行われて無事に残せましたとの連絡を頂き感無量になったことも大切な思い出です。

⑤ヘリテージマネージャーの養成

静岡県のヘリテージマネージャー養成講座はここ数年参加者が少なく休講していました。折角養成したヘリテージマネージャーも高齢化で、減少が進んできました。能登半島地震の発生を受けて、改めてヘリテージマネージャーの必要性が高まっていますので、令和7年度はヘリテージマネージャーの養成講座を再開する予定です。

（景観整備まちづくり委員長 倉田裕司）

■特集 北九州建築紀行



■若松港地区

洞海湾の畔にあるかつて石炭の積出港として、賑わった若松の街の面影を残す場所。今も現役の明治・大正期建築が立ち並び、港町若松を象徴するエリアとなっている。



■ 上野ビル

旧三菱合資会社若松支店として、大正 2（1913）年に建設された。当時のデザインからは 1 階正面玄関部分の増築、最上階の看板が位置する部分の改造が行われたぐらいで、補修が行われていない壁や窓廻りは当時のままとなっている。



建物内部は 2-3 階が吹き抜けの回廊となっており、当時のままの手摺と鉄の柱が並んでいる。吹き抜けの光天井にも当時のままのステンドグラスが嵌め込まれている。

建築士会全国大会鹿児島大会に参加しました。せっかく九州まで行きましたので、北九州にある歴史的建築物を廻り、特集として紹介します。紹介する地区は若松港地区と門司港地区です。かつて日本一の石炭積出港として栄えた若松港。1889 年に開港し、北九州最北端に位置する国際貿易港だった門司港。2 つの地区にある歴史的建築物、対照的な保存、活用方法をしている 2 つの地区を紹介します。



■ 旧古河鉱業若松ビル

大正 8（1919）年に建設された煉瓦造り 2 階建の建物。全面道路に合わせて、平面が鋭角となり、道路が交差する隅の部分に 3 階建の塔を配置、正面玄関を設け、外観は縦長の窓。均等に配置された付柱で垂直線を強調している。



■ 石炭会館

明治 38（1905）年建設の若松地区に現存する最も古い建築で現在も事務所として使用されている。木造 2 階建で、外装はモルタル塗り、壁面に目地を入れ石造り風の印象を与えている。様式建築の特徴を良く表していて、小さなポーチを持つ玄関が真ん中の位置する左右対称の形をしている。

上野ビル

〒808-0034 福岡県北九州市若松区本町1丁目10-17
Tel 093-761-4321

旧古河鉱業若松ビル

〒808-0034 福岡県北九州市若松区本町1丁目11-18
Tel 093-752-3387

石炭会館

〒808-0034 福岡県北九州市若松区本町1丁目13-15

■特集 北九州建築紀行



■門司港地区

関門海峡に面し、明治初期に開港、明治から昭和初期に貿易港として栄えた門司港。しかし、終戦とともに大陸貿易が縮小され石炭の積出も減り、港としては低迷し次第に衰退してゆくことになります。しかし、行政と民間の協力のもと歴史的建築物を生かした「門司港レトロ」として生まれ変わり今では観光地として、新たな歴史を歩んでいる。若松地区とは対照的に門司地区の建物はキレイに修復され、街全体を一つのレトロな街並みとして再生した。



■ JR門司港駅

明治 24（1891）年に九州鉄道の起点駅として開業した門司駅（現門司港駅）の2代目の駅舎。木造ながら、外壁をモルタルで石貼り風に仕上げ、銅板葺きのマンサード屋根を乗せることで、ネオルネサンス調の重厚感のある外観デザインになっている。



■ 北九州市旧大阪商船

大正 6（1917）年に竣工した建物で、角にある八角形の塔が特徴で、当時門司で一番高い建物として地区のランドマークのような存在だった。木造 2 階建（一部煉瓦型枠コンクリート造）で、屋根に設けられた大きなアーチを配した隅角部の窓と、その上部の八角形の塔屋はドイツ・オーストリアで開花したゼツェンションの影響を受けたと言われている。



■ 旧門司三井俱楽部

大正 10（1921）年に三井物産株式会社門司支店が、山手の新興住宅地に建設した接客施設。接客用の洋館とサービス設備を備えた和風の附属屋から構成されている。中央の大きなスレート屋根の切妻に小さな窓を設けている。外壁は瓦張りの下地の上に、1階は人造石洗い出し壁、2階や出窓部分をハーフティンバーとしてドイツ壁と呼ばれる表面が凸凹のモルタル掃付け壁となっている。



■ 親水広場と旧門司税關

明治 45（1912）年に門司税關として建設された。煉瓦造2階建。初代は完成してすぐに火災に焼失、現存する建物が2代目となる。平成 6 年に修復・復元し、ネオルネサンス調を取り入れた近代建築として甦った。

JR門司港駅

〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸 1 丁目 5-31

Tel 093-321-8843

北九州市旧大阪商船

〒801-0852 福岡県北九州市門司区港町 7-18

Tel 093-321-4151

旧門司三井俱楽部

〒801-0852 福岡県北九州市門司区港町 7-1

Tel 093-321-4151 (レストラン 093-332-1000)

旧門司税關

〒801-0843 福岡県北九州市門司区東港町 1-24

Tel 093-321-4151

第15回 高校生の建築甲子園 静岡県予選大会

本会青年企画委員 小野田 知矢

秋晴れが心地よくなり始める10月中旬、今年度も建築甲子園の時期がやってまいりました。参加されます高校生、担当の先生の皆様には、昨年以上のハイレベルな作品を提出していただき、本当に感謝する次第です。

今年度のテーマは昨年に続き『地域のくらし—まちに住む・地域に開く住まい』になり、住居系の入ったテーマになりました。まちや住む人、職業や地域などを自ら設定し、どのように暮らしているのか想像しながら作品を作り上げていくのは大変でもあり、楽しかったと思います。新しい形で住居とまちが共存する提案もあり審査員も驚いていました。ぜひこの経験を生かして今後に繋げて頂ければ幸いです。

審査は、建築家：栗田仁様、静岡理工科大：田井幹夫准教授、静岡県くらし・環境部建築住宅局：鈴木義彦局長をお迎えし、松下好宏審査委員長のもと7名の審査委員にて執り行いました。審査の流れとしては、まず作品が提出され、一度事務局にて審査委員の皆様に集まって頂き、じっくりと作品を見て頂きます。そこから静岡県予選大会までの間、各作品の評価する点等を何回も確認しながらまとめ、静岡県予選大会を迎えます。決して建築甲子園 静岡県予選大会は即日による評価を下していない事を知っていただければ幸いです。高校生、審査員共に本気が見られて感動しました。優勝の天竜高校、全国で健闘を祈ります！

作品名 シン・丸子

静岡県の理念の1つである「ふじのくに美しく、品格のある農村の創造～誰もが住みたい、訪れたい、選ばれる しづおかの農村～」が、現代の日本社会では、少子高齢化によって、農家・農村が衰退してきている。静岡県駿河区丸子では、高齢化や農村問題に加え、地域内のコミュニティーの崩壊や地域の安全性も課題になっている。さらに、丸子は比較的、それらの問題解決が必要とされている。そして、丸子では「地域でできることを地域で」「住んでよし、訪ねてよし」という目標が掲げられている。そこで、私たちは、“放課後こども教室”×“農業”的一戸建て住宅を提案します

静岡県立科学技術高等学校 チーム名 3年生Aチーム

監督 横瀬 朋彦先生 選手4名



作品名 持舟

かつて「持舟」と呼ばれ、明治以前から続く漁業により活気ある港町として栄えてきた用宗。シラス漁を中心とした漁業が営まれてきたが、近年は発展が乏しく町から活気は消えかけている。そんな中この町は観光地として新たに町を盛り上げようとしている。しかし、外側の海沿いに展開されている観光客向けの店舗は、ジェラート屋や古着屋など若者向けのものが殆どで、用宗とは脈絡がない。そこからは「空回りするまち」という印象を受けてしまう。それに対し、町の内側の懐かしい町並みは空き家が増えてしまったことにより、景観が失われつつあり、「置いていかれたまち」の姿が残っている。そんな用宗を外側の店だけでなく、古き良きコミュニティのある地域全体で盛り上げる場所にする職住一体の戸建ての家を提案する。

静岡県立科学技術高等学校 チーム名 3年生Bチーム

監督 横瀬 朋彦先生 選手5名



作品名 なかまっこ食堂

日本有数の港町焼津、その港 焼津港は、水揚量・金額ともに日本屈指です。しかし、焼津は、人口の大幅減少の予測・単身世帯の増加で地域のつながりが弱くなってしまいます。そこで、市民と観光客がともに関わり合うことで新たな焼津の魅力を発信します。

静岡県立科学技術高等学校 チーム名 2年生チーム

監督 横瀬 朋彦先生 選手3名





作品名　都会と地方をつなぐ -葛布と建築、伝統と現代の融合-

70年以上の歴史がある大井川葛布は島田市の伝統であるが、いまや作り手が消えつつある。本提案では、築100年以上の木造平屋建ての空き家をリノベーションし、歴史的な風景や文化を保存する。同時に都会と地方の二地域で居住を目指す人に対して、活躍の機会と場を提供している。一階の葛布工房では家族や住民たちが新たな関係性を構築することができるだろう。南面には既存の外壁を損なわない木製建具を前面に配し、まちとの連続的なつながりや調和を重視した。職場と居住空間を明確にフロアで分け、夫婦のはたらく拠点であると同時に地域とのつながりを生む地域にひらかれた空間とした。また、道路からセットバックすることで屋外からの視線を遮りつつ、採光や通風を得られるように計画した。この住宅が島田市の伝統的な文化を継承し、ここで暮らす家族や街の住民、二地域居住者に対して、広く開かれた住宅となることを願う。

静岡県立島田工業高等学校　チーム名　チーム島工

監督　滝口　諒先生　選手18名



作品名　祭りとハナレ・生活と地域を繋ぐ家

祭りは、地域の鼓動であり、人々を結びつける力を持っている。この家は、日常生活に祭りを取り込み、地域と住まいが繋がる「ハナレ」の空間を提案する。段差を活かした敷地構成により、住まいは町に開かれ、家族と地域が自然に交わる場となる。テラスや庭は、地域の人々が集い、交流を深める空間として機能し、祭りの準備やイベントが日常の中で行われる。

この家は、「ハナレ」を通じて祭りと家族の生活が交差し、地域の伝統と未来を繋げる場を創り出す。この住宅が島田市の伝統的な文化を継承し、ここで暮らす家族や街の住民、二地域居住者に対して、広く開かれた住宅となることを願う。

静岡県立天竜高等学校　チーム名　建築系列有志

監督　藤井　邦光先生　選手3名



作品名　防災亭

「地域に開く戸建の住まい」とは、ただ単に店を営み地域との触れ合いを増やすだけでなく、どのような形で地域との関わりを持ち、市民と触れ合っていくか、ということが大事だと考える。このような戸建では、一家が店を営むと共に防災についての情報を広めることで地域の人と協力し、子供が自由に遊んだりと、カフェを嗜む以外にも地域の人と共に生活することができる。この敷地である静岡県沼津市には、沼津港で捕れる海鮮や深海魚水族館など、他県に誇ることができる歴史あるものがある。これらの地域との関わりを持つ建物の要素を取り入れて、「地域と触れ合い、助け合い、沼津の魅力を分かち合う」ことができる暮らしを目指した。そのために家族と地域の人を繋げるためにカフェと暮らしで使うキッチンを設けた。

静岡県立沼津工業高等学校　チーム名　沼津工業A

監督　吉田　健二先生　選手3名

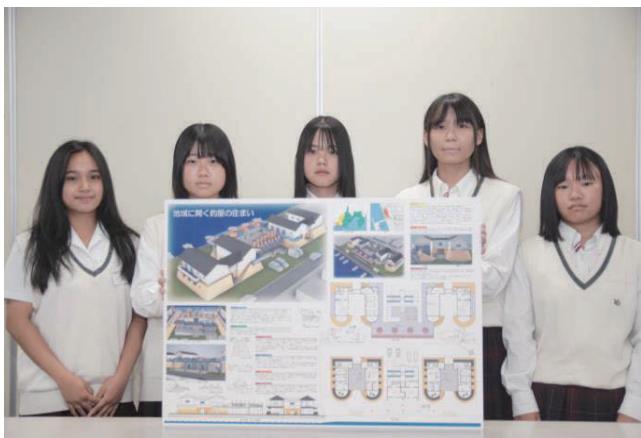


作品名　登山堂

この住宅は、静岡県沼津市の香貫山登山道の入口に設計しました。香貫山は沼津の町の中に存在し、地域住民を始めとした多くの人が登山を楽しむ、地域に愛されている山です。この住宅の設計は、居住する家族と地域住民を香貫山登山に着目して繋げることができないか、という沼津市民ならではの発想から始まりました。テーマは「香貫山の「道」となる家」です。人々の日々の営みの動線に溶け込み自然に使われ、さまざまな繋がりを人々に与える、まさに「道」のような役割を持つ住宅にしました。居住する家族には地域コミュニティとの関わりをもたらし、地域住民には登山の準備を行ったり疲れを癒せる場所を提供します。また、傾斜した特徴的な外観は、「香貫山にある建築物」ではなく、「香貫山という場所の一部」として風景に溶け込めるよう設計しました。

静岡県立沼津工業高等学校　チーム名　沼津工業B

監督　吉田　健二先生　選手3名

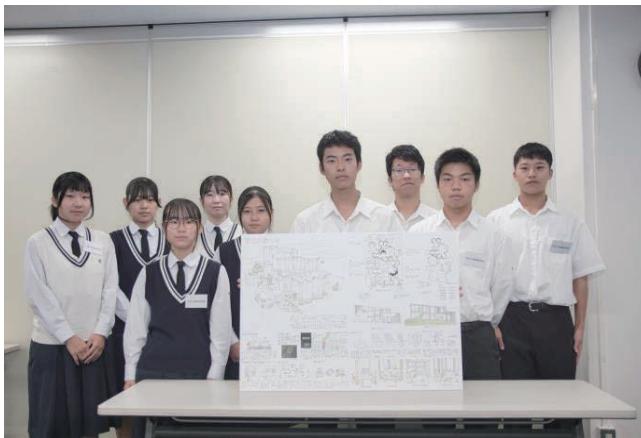


作品名 地域に開く釣屋の住まい

舞阪町は静岡県浜松市の西南に位置し江戸時代には東海道 30 番目の宿場町であった。西へ向かうにはここから船を使い関所のある新居宿に渡る。船着き場には雁木が整備され、ここに立つ常夜灯を自印に船が着く。舞阪の宿には、本陣 2 軒・脇本陣 1 軒・旅籠屋 28 軒があり、この時代から漁業や渡船業で生計を立てた街である。浜名湖に面しているこの地域は、うなぎや牡蠣、すっぽんなどの養殖業が全国的に有名で、時期になれば潮干狩りもできる。また、遠州灘ではフグやシラス漁が盛んにおこなわれるなど豊かな漁場がある自慢の地域である。そこで私たちは、漁師の家を拠点として地域の人の触れ合いの場ができなかっただけと考え「地域に開く釣屋の住まい」に取り組むことにした。

静岡県立浜松大平台高等学校 チーム名 チームおひまる

監督 太田 武先生 選手 5 名



作品名 駄菓子屋×“今”

地域に開きながら交流を促し、子供の居場所となる建築を提案する。近年、新型コロナウィルスなどの影響により、テレワークやリモートワークなど働き方が多様化した。それにより、対面で人と話すことが減り、生活の大部分を家庭内で完結させてしまう人が増えた。また、かつては子どもが集まる場所として駄菓子屋が挙げられたが、時代が変化するにつれ、そのような「子供の居場所」という場は減少した。さらに、現代では共働きの家庭が増え、子どもが 1 人で過ごすことが多くなった。これらのことから、地域に開きながら交流を促し、子供の居場所となる建築を考えた。大人と子供が共通の拠点を持つことで、子どもの成長を見守りながら、交流が盛んに行われるよう駄菓子屋とコワーキングスペースを掛け合わせた。かつての駄菓子屋が持つ機能を活かしつつ、時代と地域のニーズにあった建築を作ることで交流の輪が再び形成され、地域社会の絆が強化されていくことを期待する。

静岡県立浜松工業高等学校 チーム名 浜松工業高等学校建築研究部

監督 鈴木 将也先生 選手 9 名

令和6年度 最優秀作品の紹介

祭りとハナレ 生活と地域を繋ぐ家

この家は、日常生活に祭りを取り込み、地域と繋がりながら「ハナレ」の空間を提供する。段差を活かした敷地構造により、住まいは町に開かれて、家裏と地域が自然に交わる場となる。テラスや庭は、は區域の大きさが無い、交流を深める空間として機能し、祭りの準備やイベントが開催される。

この家は、「ハナレ」を通じて祭りと家族の生活を交差し、地域の在継と未来を開ける場を創り出す。

10 断面計画

11 立面計画

12 基礎・天井計画

13 施設構成図

14 家族構成と職業（祭りプロデューサー）

15 施設構成と職業（祭りプロデューサー）

16 施設構成と職業（祭りプロデューサー）

17 喜びある「白の風景」

18 喜びある「白の風景」

19 喜びある「白の風景」

20 喜びある「白の風景」

21 喜びある「白の風景」

22 喜びある「白の風景」

23 喜びある「白の風景」

24 喜びある「白の風景」

25 喜びある「白の風景」

26 喜びある「白の風景」

27 喜びある「白の風景」

28 喜びある「白の風景」

29 喜びある「白の風景」

30 喜びある「白の風景」

31 喜びある「白の風景」

32 喜びある「白の風景」

33 喜びある「白の風景」

34 喜びある「白の風景」

35 喜びある「白の風景」

36 喜びある「白の風景」

37 喜びある「白の風景」

38 喜びある「白の風景」

39 喜びある「白の風景」

40 喜びある「白の風景」

41 喜びある「白の風景」

42 喜びある「白の風景」

43 喜びある「白の風景」

44 喜びある「白の風景」

45 喜びある「白の風景」

46 喜びある「白の風景」

47 喜びある「白の風景」

48 喜びある「白の風景」

49 喜びある「白の風景」

50 喜びある「白の風景」

51 喜びある「白の風景」

52 喜びある「白の風景」

53 喜びある「白の風景」

54 喜びある「白の風景」

55 喜びある「白の風景」

56 喜びある「白の風景」

57 喜びある「白の風景」

58 喜びある「白の風景」

59 喜びある「白の風景」

60 喜びある「白の風景」

61 喜びある「白の風景」

62 喜びある「白の風景」

63 喜びある「白の風景」

64 喜びある「白の風景」

65 喜びある「白の風景」

66 喜びある「白の風景」

67 喜びある「白の風景」

68 喜びある「白の風景」

69 喜びある「白の風景」

70 喜びある「白の風景」

71 喜びある「白の風景」

72 喜びある「白の風景」

73 喜びある「白の風景」

74 喜びある「白の風景」

75 喜びある「白の風景」

76 喜びある「白の風景」

77 喜びある「白の風景」

78 喜びある「白の風景」

79 喜びある「白の風景」

80 喜びある「白の風景」

81 喜びある「白の風景」

82 喜びある「白の風景」

83 喜びある「白の風景」

84 喜びある「白の風景」

85 喜びある「白の風景」

86 喜びある「白の風景」

87 喜びある「白の風景」

88 喜びある「白の風景」

89 喜びある「白の風景」

90 喜びある「白の風景」

91 喜びある「白の風景」

92 喜びある「白の風景」

93 喜びある「白の風景」

94 喜びある「白の風景」

95 喜びある「白の風景」

96 喜びある「白の風景」

97 喜びある「白の風景」

98 喜びある「白の風景」

99 喜びある「白の風景」

100 喜びある「白の風景」

101 喜びある「白の風景」

102 喜びある「白の風景」

103 喜びある「白の風景」

104 喜びある「白の風景」

105 喜びある「白の風景」

106 喜びある「白の風景」

107 喜びある「白の風景」

108 喜びある「白の風景」

109 喜びある「白の風景」

110 喜びある「白の風景」

111 喜びある「白の風景」

112 喜びある「白の風景」

113 喜びある「白の風景」

114 喜びある「白の風景」

115 喜びある「白の風景」

116 喜びある「白の風景」

117 喜びある「白の風景」

118 喜びある「白の風景」

119 喜びある「白の風景」

120 喜びある「白の風景」

121 喜びある「白の風景」

122 喜びある「白の風景」

123 喜びある「白の風景」

124 喜びある「白の風景」

125 喜びある「白の風景」

126 喜びある「白の風景」

127 喜びある「白の風景」

128 喜びある「白の風景」

129 喜びある「白の風景」

130 喜びある「白の風景」

131 喜びある「白の風景」

132 喜びある「白の風景」

133 喜びある「白の風景」

134 喜びある「白の風景」

135 喜びある「白の風景」

136 喜びある「白の風景」

137 喜びある「白の風景」

138 喜びある「白の風景」

139 喜びある「白の風景」

140 喜びある「白の風景」

141 喜びある「白の風景」

142 喜びある「白の風景」

143 喜びある「白の風景」

144 喜びある「白の風景」

145 喜びある「白の風景」

146 喜びある「白の風景」

147 喜びある「白の風景」

148 喜びある「白の風景」

149 喜びある「白の風景」

150 喜びある「白の風景」

151 喜びある「白の風景」

152 喜びある「白の風景」

153 喜びある「白の風景」

154 喜びある「白の風景」

155 喜びある「白の風景」

156 喜びある「白の風景」

157 喜びある「白の風景」

158 喜びある「白の風景」

159 喜びある「白の風景」

160 喜びある「白の風景」

161 喜びある「白の風景」

162 喜びある「白の風景」

163 喜びある「白の風景」

164 喜びある「白の風景」

165 喜びある「白の風景」

166 喜びある「白の風景」

167 喜びある「白の風景」

168 喜びある「白の風景」

169 喜びある「白の風景」

170 喜びある「白の風景」

171 喜びある「白の風景」

172 喜びある「白の風景」

173 喜びある「白の風景」

174 喜びある「白の風景」

175 喜びある「白の風景」

176 喜びある「白の風景」

177 喜びある「白の風景」

178 喜びある「白の風景」

179 喜びある「白の風景」

180 喜びある「白の風景」

181 喜びある「白の風景」

182 喜びある「白の風景」

183 喜びある「白の風景」

184 喜びある「白の風景」

185 喜びある「白の風景」

186 喜びある「白の風景」

187 喜びある「白の風景」

188 喜びある「白の風景」

189 喜びある「白の風景」

190 喜びある「白の風景」

191 喜びある「白の風景」

192 喜びある「白の風景」

193 喜びある「白の風景」

194 喜びある「白の風景」

195 喜びある「白の風景」

196 喜びある「白の風景」

197 喜びある「白の風景」

198 喜びある「白の風景」

199 喜びある「白の風景」

200 喜びある「白の風景」

201 喜びある「白の風景」

202 喜びある「白の風景」

203 喜びある「白の風景」

204 喜びある「白の風景」

205 喜びある「白の風景」

206 喜びある「白の風景」

207 喜びある「白の風景」

208 喜びある「白の風景」

209 喜びある「白の風景」

210 喜びある「白の風景」

211 喜びある「白の風景」

212 喜びある「白の風景」

213 喜びある「白の風景」

214 喜びある「白の風景」

215 喜びある「白の風景」

216 喜びある「白の風景」

217 喜びある「白の風景」

218 喜びある「白の風景」

219 喜びある「白の風景」

220 喜びある「白の風景」

221 喜びある「白の風景」

222 喜びある「白の風景」

223 喜びある「白の風景」

224 喜びある「白の風景」

225 喜びある「白の風景」

226 喜びある「白の風景」

227 喜びある「白の風景」

228 喜びある「白の風景」

229 喜びある「白の風景」

230 喜びある「白の風景」

231 喜びある「白の風景」

232 喜びある「白の風景」

233 喜びある「白の風景」

234 喜びある「白の風景」

235 喜びある「白の風景」

236 喜びある「白の風景」

237 喜びある「白の風景」

238 喜びある「白の風景」

239 喜びある「白の風景」

240 喜びある「白の風景」

241 喜びある「白の風景」

242 喜びある「白の風景」

243 喜びある「白の風景」

244 喜びある「白の風景」

245 喜びある「白の風景」

246 喜びある「白の風景」

247 喜びある「白の風景」

248 喜びある「白の風景」

249 喜びある「白の風景」

250 喜びある「白の風景」

251 喜びある「白の風景」

252 喜びある「白の風景」

253 喜びある「白の風景」

254 喜びある「白の風景」

255 喜びある「白の風景」

256 喜びある「白の風景」

257 喜びある「白の風景」

258 喜びある「白の風景」

259 喜びある「白の風景」

260 喜びある「白の風景」

261 喜びある「白の風景」

262 喜びある「白の風景」

263 喜びある「白の風景」

264 喜びある「白の風景」

265 喜びある「白の風景」

266 喜びある「白の風景」

267 喜びある「白の風景」

268 喜びある「白の風景」

269 喜びある「白の風景」

270 喜びある「白の風景」

271 喜びある「白の風景」

272 喜びある「白の風景」

273 喜びある「白の風景」

274 喜びある「白の風景」

275 喜びある「白の風景」

276 喜びある「白の風景」

277 喜びある「白の風景」

278 喜びある「白の風景」

279 喜びある「白の風景」

280 喜びある「白の風景」

281 喜びある「白の風景」

282 喜びある「白の風景」

283 喜びある「白の風景」

284 喜びある「白の風景」

285 喜びある「白の風景」

286 喜びある「白の風景」

287 喜びある「白の風景」

288 喜びある「白の風景」

289 喜びある「白の風景」

290 喜びある「白の風景」

291 喜びある「白の風景」

292 喜びある「白の風景」

293 喜びある「白の風景」

294 喜びある「白の風景」

295 喜びある「白の風景」

296 喜びある「白の風景」

297 喜びある「白の風景」

298 喜びある「白の風景」

299 喜びある「白の風景」

300 喜びある「白の風景」

301 喜びある「白の風景」

302 喜びある「白の風景」

303 喜びある「白の風景」

304 喜びある「白の風景」

305 喜びある「白の風景」

306 喜びある「白の風景」

307 喜びある「白の風景」

308 喜びある「白の風景」

309 喜びある「白の風景」

310 喜びある「白の風景」

311 喜びある「白の風景」

312 喜びある「白の風景」

313 喜びある「白の風景」

314 喜びある「白の風景」

315 喜びある「白の風景」

316 喜びある「白の風景」

317 喜びある「白の風景」

318 喜びある「白の風景」

319 喜びある「白の風景」

320 喜びある「白の風景」

321 喜びある「白の風景」

322 喜びある「白の風景」

323 喜びある「白の風景」

324 喜びある「白の風景」

325 喜びある「白の風景」

326 喜びある「白の風景」

327 喜びある「白の風景」

328 喜びある「白の風景」

329 喜びある「白の風景」

330 喜びある「白の風景」

331 喜びある「白の風景」

332 喜びある「白の風景」

333 喜びある「白の風景」

334 喜びある「白の風景」

335 喜びある「白の風景」

336 喜びある「白の風景」

337 喜びある「白の風景」

338 喜びある「白の風景」

339 喜びある「白の風景」

340 喜びある「白の風景」

341 喜びある「白の風景」

342 喜びある「白の風景」

343 喜びある「白の風景」

344 喜びある「白の風景」

345 喜びある「白の風景」

346 喜びある「白の風景」

347 喜びある「白の風景」

348 喜びある「白の風景」

349 喜びある「白の風景」

350 喜びある「白の風景」

351 喜びある「白の風景」

352 喜びある「白の風景」

353 喜びある「白の風景」

354 喜びある「白の風景」

355 喜びある「白の風景」

356 喜びある「白の風景」

357 喜びある「白の風景」

358 喜びある「白の風景」

359 喜びある「白の風景」

360 喜びある「白の風景」

361 喜びある「白の風景」

362 喜びある「白の風景」

363 喜びある「白の風景」

364 喜びある「白の風景」

365 喜びある「白の風景」

366 喜びある「白の風景」

367 喜びある「白の風景」

368 喜びある「白の風景」

369 喜びある「白の風景」

370 喜びある「白の風景」

371 喜びある「白の風景」

372 喜びある「白の風景」

373 喜びある「白の風景」

374 喜びある「白の風景」

375 喜びある「白の風景」

376 喜びある「白の風景」

377 喜びある「白の風景」

378 喜びある「白の風景」

379 喜びある「白の風景」

380 喜びある「白の風景」

381 喜びある「白の風景」

382 喜びある「白の風景」

383 喜びある「白の風景」

384 喜びある「白の風景」

385 喜びある「白の風景」

386 喜びある「白の風景」

387 喜びある「白の風景」

388 喜びある「白の風景」

389 喜びある「白の風景」

390 喜びある「白の風景」

391 喜びある「白の風景」

392 喜びある「白の風景」

393 喜びある「白の風景」

394 喜びある「白の風景」

395 喜びある「白の風景」

396 喜びある「白の風景」

397 喜びある「白の風景」

398 喜びある「白の風景」

399 喜びある「白の風景」

400 喜びある「白の風景」

401 喜びある「白の風景」

402 喜びある「白の風景」

403 喜びある「白の風景」

404 喜びある「白の風景」

405 喜びある「白の風景」

406 喜びある「白の風景」

407 喜びある「白の風景」

408 喜びある「白の風景」

409 喜びある「白の風景」

410 喜びある「白の風景」

411 喜びある「白の風景」

412 喜びある「白の風景」

413 喜びある「白の風景」

414 喜びある「白の風景」

415 喜びある「白の風景」

416 喜びある「白の風景」

417 喜びある「白の風景」

418 喜びある「白の風景」

419 喜びある「白の風景」

420 喜びある「白の風景」

421 喜びある「白の風景」

422 喜びある「白の風景」

423 喜びある「白の風景」

424 喜びある「白の風景」

425 喜びある「白の風景」

426 喜びある「白の風景」

427 喜びある「白の風景」

428 喜びある「白の風景」

429 喜びある「白の風景」

430 喜びある「白の風景」

431 喜びある「白の風景」

432 喜びある「白の風景」

433 喜びある「白の風景」

434 喜びある「白の風景」

435 喜びある「白の風景」

436 喜びある「白の風景」

437 喜びある「白の風景」

438 喜びある「白の風景」

439 喜びある「白の風景」

440 喜びある「白の風景」

441 喜びある「白の風景」

442 喜びある「白の風景」

443 喜びある「白の風景」

444 喜びある「白の風景」

445 喜びある「白の風景」

446 喜びある「白の風景」

447 喜びある「白の風景」

448 喜びある「白の風景」

449 喜びある「白の風景」

450 喜びある「白の風景」

451 喜びある「白の風景」

452 喜びある「白の風景」

453 喜びある「白の風景」

454 喜びある「白の風景」

455 喜びある「白の風景」

456 喜びある「白の風景」

457 喜びある「白の風景」

458 喜びある「白の風景」

459 喜びある「白の風景」

460 喜びある「白の風景」

461 喜びある「白の風景」

462 喜びある「白の風景」

463 喜びある「白の風景」

464 喜びある「白の風景」

465 喜びある「白の風景」

466 喜びある「白の風景」

467 喜びある「白の風景」

468 喜びある「白の風景」

469 喜びある「白の風景」

470 喜びある「白の風景」

471 喜びある「白の風景」

472 喜びある「白の風景」

473 喜びある「白の風景」

474 喜びある「白の風景」

475 喜びある「白の風景」

476 喜びある「白の風景」

477 喜びある「白の風景」

478 喜びある「白の風景」

479 喜びある「白の風景」

480 喜びある「白の風景」

481 喜びある「白の風景」

482 喜びある「白の風景」

483 喜びある「白の風景」

484 喜びある「白の風景」

485 喜びある「白の風景」

486 喜びある「白の風景」

487 喜びある「白の風景」

488 喜びある「白の風景」

489 喜びある「白の風景」

490 喜びある「白の風景」

491 喜びある「白の風景」

492 喜びある「白の風景」

493 喜びある「白の風景」

494 喜びある「白の風景」

495 喜びある「白の風景」

496 喜びある「白の風景」

497 喜びある「白の風景」

498 喜びある「白の風景」

499 喜びある「白の風景」

500 喜びある「白の風景」

501 喜びある「白の風景」

502 喜びある「白の風景」

503 喜びある「白の風景」

504 喜びある「白の風景」

505 喜びある「白の風景」

506 喜びある「白の風景」

507 喜びある「白の風景」

508 喜びある「白の風景」

509 喜びある「白の風景」

510 喜びある「白の風景」

511 喜びある「白の風景」

512 喜びある「白の風景」

513 喜びある「白の風景」

514 喜びある「白の風景」

515 喜びある「白の風景」

516 喜びある「白の風景」

517 喜びある「白の風景」

518 喜びある「白の風景」

519 喜びある「白の風景」

520 喜びある「白の風景」

521 喜びある「白の風景」

522 喜びある「白の風景」

523 喜びある「白の風景」

524 喜びある「白の風景」

525 喜びある「白の風景」

526 喜びある「白の風景」

527 喜びある「白の風景」

528 喜びある「白の風景」

529 喜びある「白の風景」

530 喜びある「白の風景」

531 喜びある「白の風景」

532 喜びある「白の風景」

533 喜びある「白の風景」

COFFEE BREAK

無礼句

令和の米騒動と北海道米

終わらない夢／中部ブロック

2024年夏、スーパーからお米が消えた！覚えていませんか？「令和の米騒動」と言われました。あの時、「近所のお米屋さんに行けばあるだろう」と思いましたが、「あれ？近所にお米屋さんってあったかしら？」町内のお店は数年前に閉めちゃったし」と慌ててネットで検索しました。自転車で行ける商店街にやっと1軒。子供の頃に行ったことあるぞ。そこでやっと1袋買いました。やれやれ・・。そういうえば、酒屋さんも近所の店は、みんな廃業てしまっている。ここ数年は、スーパーや量販店で買っていたから、気が付かなかつたなあ！皆さんのご近所ではどうですか？統計によると、お米屋さんや酒屋さんは、昭和が終わるとともに急速に個人の小売店が減少し、今やピーク時の半分になっているそうです。確かに、値段や品揃えなどから、小売店では買わなくなっていましたねえ。こんな時だけ頼るなんて、反省です。

さて、米騒動関連ですが「北海道のお米」食べたことがありますか？"ゆめぴりか""ななつぼし"静岡で売っているブランド米はご存じでしょう？実は、今「北海道米」はすごいんです！私の記憶にある北海道米は、大学生のとき（今から40年も前、昭和の時代です）、学食で初めて食べたパサパサしてなんともおいしくない"道産米"でした。それから二度と北海道のお米を口にすることはありませんでした。

がしかし・・・米騒動の最中に、北海道屈指の穀倉地帯（札幌から旭川に向かう、空知・上川地方：岩見沢、美唄、滝川など）に行ってきましたのですが、そこで目にしたお米にびっくり。「ふっくりんこ」「おぼろづき」「ほしのゆめ」など、静岡では知られていないブランド米があるんです。北海道は、お米の作付面積・収穫量とも、新潟県に次いで全国第2位だそうですよ。知ってましたか？ちょうど新米の時期だったので、「おぼろづき」買ってきました。コシヒカリと比べても遜色なくおいしいかったです。日本は広いぞ～



【岩見沢駅舎】

2005年に
デザインコンペ
西村浩氏設計
2009年開業



千尋の滝（センピロノタキ）

君の名は／中部ブロック

念願の屋久島へ行ってきました。

屋久島では独特の生態系、文化、歴史を感じました。そのひとつが千尋の滝「センピロノタキ」です。この滝はモッチャム岳の裾の巨大な花崗岩の岩盤を鯛之川が刻んで、壮大なV字谷の景観をつくりだしたもので、屋久島を代表する滝の一つです。滝の左側にある一枚岩は、まるで千人が手を結んだくらいの大きさということで「千尋の滝」と名づけられました。昔から人が両手を広げた長さを"一尋"と呼び、身体のモノサシとして使っていたことに由来します。

この「千尋」読み方が「センピロ」と読むところにとてもかわいらしさを感じ惹かれてしまいました。

また、屋久島にはたくさんの野生のお猿さんが住んでいて、幸運にも時々出会うことができました。屋久島のお猿さんは、とても小柄で大人の猿でも子猿のような大きさです。このお猿さんの呼び方も島の人たちは「あんちゃん」と呼ぶのだそうです。「サル」という言葉は縁起が悪くあまり使わないそうです。島の人たちの自然と共に存するやさしさを感じました。

今度は10時間のトレッキングに耐えられる体力をつけて、縄文杉に会いに行きたいです。





「住宅生活福祉制度」の検討

倉田 剛*

人口減少と少子高齢化に転じている我が国の社会構造は、社会保障の制度基盤や暮らしの全般に様々な逆向き現象を惹起させている。その逆向き現象の1つが全国的な空き家の増加である。

空き家の増加現象は、モザイク状の人口分布の顕象でもあるが、伝統的な土地神話の瓦解を示唆するものであり、我が国の社会経済の制度基盤を危うくするほど衝撃的な事態である。2015年5月に施行された空き家問題措置法（空家等対策特別措置法）は、空き家増加の対処療法的な出口対策であっても、予防的な原因療法ではないことは、現在も空き家が各地で増え続けている実態が何よりも証左となる。持家の空き家化現象は、少子高齢化社会がもたらす縮小経済の顕象でもあることから、今後も続くものと予測されている。持家が家計の最大資産である平均的な高齢者世帯にとっては、空き家増加は老後の経済的自立を脅かすほどの深刻な事態となる。

空き家の増加現象には明確な地域性があり、地域の高齢化と経済規模のシルバーリング、生活インフラの弱体化等々が遠因であり、住民（ヒト）の減少が近因となっている。空き家が増加している地域の単独・夫婦だけの高齢者世帯の暮らしは、住まい（イエ）の売却（カネ）が難しい、即ち、住み替えができない、セール・リースバックやリバースモーゲージも使えない、要支援・介護になったとしても持家（イエ）が足枷となって介護系施設への入所も難しい、といった進退窮まる事態が想定される。生活福祉資金貸付制度（公的リバースモーゲージ）は本来こうした事態に対処する備えであるはずだが、近年の高齢者世帯の生活実態との齟齬や乖離性から機能不全であり、また、生活福祉制度を措置から市場原理（措置）に切り替えて放置してきた施策の失敗がある。逆向き現象（Reverse phenomenon）である空き家増加への対処的施策とすれば、一般融資とは逆向きの逆担保型融資（Reverse mortgage）、即ち、公的リバースモーゲージが有効な措置となるはずである。

人生100年時代を迎える我が国においては、持家（イエ）は、もはや相続財産ではなくて、老後の自己年金化資源であるといった認識も必要になる。

資料で見る「高齢者の生活実態」

『令和6年版高齢社会白書』によると、65歳以上の者の8割以上が持家に居住していて、その持家の76.2%が「一戸建て」、8.3%が「分譲マンション等」である。また、空き家の総数は、国交省住宅局の令和4年

の資料によると、1998（平成10）年から2018（平成30）年までの20年間で1.5倍に、二次的利用や賃貸用または売却用を除いた長期不在の「その他空き家」は約1.9倍に増えている。

総務省の2021（令和3）年の資料では、2005（平成17）年から2015（平成27）年までの10年間で、単独世帯数が1.5倍強に、施設入所者は2倍弱まで増えている、現在もなお増加傾向にある。

生活保護を受けている高齢者世帯は、2024年5月の生活保護被保護者調査によると、依然として生活保護受給の主要な層であり、全体の約55.4%を占めている。

難病指定患者の医療費の公費助成や治療しながらの社会参加を支援する目的の「難病法」が、2025（令和7）年1月には施行10年を迎える。医学の進歩で、完治しないが長生きできるパーキンソン病（14.7万人）などの難病患者は今後も増え続けていく見込みから、公費の財源が不安視されている。こうした難病患者にも使える公的リバースモーゲージのバリエーション（医療介護対応型）は在宅療養・介護の世帯には有効な生活福祉の施策となる。

提言 「高齢者世帯向け住宅生活福祉の施策」

以上の公的資料が明かす高齢者の生活実態は、老々介護（認認介護）世帯の増加や施設入所の常態化、その二次的結果として高齢者の持家の空き家化等々の逆向き現象がさらに増幅する近未来を示唆するものである。こうした老後の「ヒト・イエ・カネ」に起きる不具合・不都合を鑑みると、高齢者の持家（イエ）を生活資源（カネ）に転換させる「住まいの年金化システム（Housing Pension System）⁽¹⁾」が制度化されたならば、老後の経済的自立も体現されてQOLも大幅に改善されるし、持家の空き家化にも一定の予防効果が見込めるはずである。近年の高齢者の生活実態に即した住宅生活福祉の施策とすれば、(1) 3世代同居・近居世帯を増やす（リモートワークの定着や多地域居住の推進等）、(2) 公的リバースモーゲージのバリエーションの増設、(3) 高齢者世帯向けのセール・リースバック契約の法制化、(4) 空き家問題措置法の見直し（固定資産税・都市計画税の延納など）、(5) 建物取り壊し後の更地の「非宅地⁽²⁾」の検討（固定資産税・都市計画税と不動産登記法の改定）、(6) 在宅医療・介護サービスの充実化、等々が挙げられる。

6年ぶりに改定した2024（令和6）年9月の『高齢社会対策大綱』の中に、不動産担保型生活資金貸付（公的リバースモーゲージ）の活用を促進すると明記されている。国は、現行制度の軽微な改定に止まらず、高齢者の生活ニーズに即したバリエーションの増設などの抜本的な改定に取り組まなければならない責務がある。

(1) 倉田剛（2021）『事例で読み解く「住まいを年金化する方法』晃洋書房。

(2) 倉田剛「空き家問題は住宅政策のターニングポイント」『建築静岡』2024年秋号。

しづおか木造塾2024 第1(設計)・第2(構造)講座

しづおか木造塾委員会 紙谷洋輔、鈴木浩一郎

今年度も55名の受講生とともに勉強している。

第1講座 第1部「木の可能性」

建築家 竹原義二氏（大阪）

- 黒板授業を通して、古建築と現代建築を比べ日本建築の歴史を同時に学び、これから建築（木造）を見直して考えていくことが大事という。
- 名古屋の100m²R C造を事例に『街を守り、敷地を更新し、新たな働く場をつくる建築』を提案。
- 狭小敷地の工事手順など考慮し、この場所にふさわしい建築を考える。木を使い構造家と組むと仕事が楽しくなる。同時に大工の技術と呼吸も大事。
- 街の歴史が残る地域に都市のスケールを継承した準耐火建築を貫入し、木の空間の実現する。

第2部「人が生きるを問う」

（「住宅建築」8月号）

- 竹原氏設計の建築を巡る中、建築とともに人が生き～亡くなっていくことの素晴らしさを伝える。
また、どのように建築と向き合っているか語る。

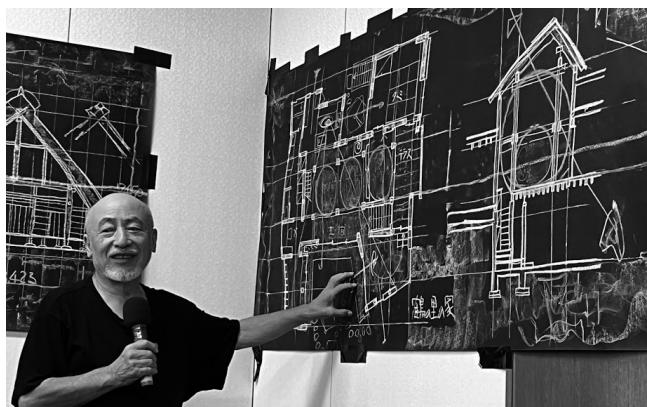
◎「日本建築に学ぶ設計手法」

黒板授業にて、木造建築の木組み、黄金比の美しさ、大切さを語る。

風土(四季)と建築、山、太陽のことを常に考えながら建築を考えていく。伊勢神宮の式年遷宮から感じるもの、 $\sqrt{2}$ の意味、出雲との関係、重源のこと。

【紙谷】 古建築から学び、応用設計する設計の楽しさを感じることができました。見に行きます。

【著書】 「竹原義二の視点 日本建築に学ぶ設計手法」
～実測を通して本質を学ぶ（学芸出版社）



チョークで書いた黒紙を持込んだ竹原講師

第2講座第1部「能登半島地震の被害状況、2025年建築基準法の改正」

24年連続登壇の構造家 山辺豊彦氏

◎「能登半島地震の被害状況」

- 地震動の特徴として木造家屋に大きな被害を与える周期帯の加速度応答スペクトルであった。
- 被害は、1階の層崩壊、増築された混構造のずれ、液状化による地盤沈下など。

※ 傾斜した建物の5種類の修復方法を紹介。

◎2025基準法改正、木構造に関わる改正の要点

- 申請が必要な規模を見直し
- 柱の小径が実荷重による検討（必要壁量も）
- 高さ16m以下、2階建てで300m²以下の場合、仕様規定で計算できるが、耐震等級の取得のために許容応力度計算をすることになる。

第2部「建物設計のあるべき姿を考える」

- 木構造の基本は、基礎、地盤の上に軸組（柱、梁）、鉛直構面（耐力壁）、水平構面（床組、小屋組）で接合によって構成される。

⇒これらの連続性をもって、適切な木構造となる。

◎構造計画の主な注意点

- 梁の断面設計の3つの留意点
①断面積はせん断力、②断面係数は曲げ応力、③断面二次モーメントはたわみ
- 大梁、小梁の組み方は、荷重のかかり方を検討
- 小屋梁に継手を設けると、2階床梁は屋根荷重と床荷重の両方を支持しなければならない。さらに接合部の負担も増大する。
- 床組は面材の剛性が高いほど、根太の組み方が床倍率（面剛性）に影響する。
- 応力が集中する床面の先行破壊を防止したい。
- 基礎は平面計画と連動させる。
- 軸組の連続性、耐力壁の連続性、水平構面の連続性、耐力壁と水平構面の連続性、構面と基礎の連続性、上記のことが“構造計画の肝”となる。

◆編集後記

鹿児島には車で行きました。大阪からフェリーに乗り鹿児島志布志へ、霧島を廻り全国大会会場へ行き、九州を縦断し太宰府へ、北九州・門司を取材し、山陽道通り帰る途中で倉敷に寄りました。西日本を制覇した様な取材でした。無事に帰って来れたのは、廻った神社のご加護でしょう。

取材協力

霧島神宮	様
太宰府天満宮	様
上野ビル	様
石炭会館	様
北九州市	様
JR九州	様

ご協力を感謝いたします。

編集長 広報情報委員 塩見敏弘

◆ご意見募集

静岡県建築士会広報情報委員では、広報誌「建築静岡」をより有益な情報源とするためのご意見、ご提案を募集しています。お名前、ブロック名をご記入の上、下記あてにFAXでお願いします。なお、いただきましたご意見は非公開とし、個々のご意見への直接回答は控えさせていただきます、ご了承下さい。

公益社団法人 静岡県建築士会
広報誌意見募集係 FAX 054-273-0478

◆広報情報委員会

担当副会長	吉山真三	(西部)
担当理事	藤原龍美	(西部)
委員長	杉山真一	(中部)
副委員長	内山孝	(西部)
	鈴木忠	(東部)
委 員	塩見敏弘	・ 三田芳之 ・ 長尾隆行 (東部)
	星野浩二	・ 松村香代子 佐藤真知子 (中部)
	福田光宏	・ 山口知己 志茂野昌歳 (西部)

編集長：塩見敏弘 (2025 Winter)

発行所：公益社団法人静岡県建築士会
〒420-0033 静岡市葵区昭和町9-5
第2大石ビル7階
TEL 054-254-9381 FAX 054-273-0478
<http://www.shizu-shikai.com>

印刷所：(有)橋本印刷所



◆事務局からのお知らせ

年会費の納入をお忘れの方は至急お手続きをお願いします。

お問合せは、本会事務局・各ブロック事務局まで。

本会 事務局：054-254-9381 東部ブロック：055-939-8210

中部ブロック：054-204-6880 西部ブロック：053-451-5166

※会費及び入会金に関する規程

第5条第2項により会員様は、会費の年額を毎年5月27日（その日が土・日又は祝日に当たるときは翌営業日）までに納入しなければならないことになっています。

会員数 令和6年10月16日現在

正会員	932
賛助会員	142
合計	1,074

入会者

■正会員 4名

三島：大川	利次	1級	S27	生	(株) アキタ一級建築士事務所
浜松：小楠	正典	1級	S46	生	(株) 中川猛一級建築士事務所
浜松：井上	魁流	2級	H10	生	
浜松：西井	祐一	1級			(有) 西井構造設計事務所

退会者

■正会員 5名

■物故者 2名

長島 輝夫	(三島)
渡邊 稔	(富士)

ご冥福をお祈り申し上げます



藤枝支所閉所のお知らせ

誠に勝手ながら、静岡県建築住宅まちづくりセンター 藤枝支所は、
2024年12月27日（金）をもちまして閉所いたしました。

これまでの同支所への皆様からのご愛顧に深く感謝申し上げるとともに、
2025年の法改正に向け、より一層のサービス向上に努めてまいりますので、
引き続き当センターをお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

なお、閉所後のお問い合わせなどにつきましては、以下へお願いいたします。

お問い合わせ

中部事務所 TEL: 054-202-5572

業務部 TEL: 054-202-5580

(受付時間：月～金 9:00～12:00/13:00～17:00)



一般財団法人 静岡県建築住宅まちづくりセンター

静岡 まちせん 検索



お問合せ先



岡部株式会社



鉄骨梁貫通孔補強工法

中低層の様々な建物に使用可能！

SPフィットブレース
Slim Pin Fit Brace



鋼材系制振デバイス
ツイストダンパー
TWIST DAMPER



ベースパック事業部 〒420-0035 静岡市葵区七間町 18-1 PIVOT 静岡 301
TEL:054-204-7282 FAX:054-204-7288 URL:<http://www.b-pack.net/>



若松港 石炭会館 内部階段



若松港 枹木ビル



倉敷 美觀地区



大阪南港 志布志行フェリー



大阪南港



関門海峡 関門橋



小倉城



小倉 紫川親水広場の夜景



倉敷 美観地区



倉敷 美観地区



倉敷 美観地区



倉敷 美観地区

公益社団法人静岡県建築士会

定価一部 260 円、送料一部 100 円
会員の方には購読料として会費の中に含まれています。

建築静岡 Winter 2025

第 691 号 令和 7 年 1 月 1 日発行

発行所 公益社団法人静岡県建築士会
静岡市葵区昭和町 9 番 5 号 第 2 大石ビル 7 階

T E L 054-254-9381

印刷所 有橋本印刷所